

## ハッサケ県立病院

訪問に際し、やはりJICAの研修で日本を訪問したことのある救急医のハムード医師の協力が大きかった。彼は病院内見学、討論、調査のあらゆる面で便宜を図ってくれ、この技術協力を推進するうえで大きな力となってくれた。

ハッサケ県立病院には、手術場は泌尿器科、眼科、外科などの手術室があるが、胸部外科はない。脳外科医はいるが機械が十分でない。特に心臓病関係の設備が不備で、心臓カテーテル検査の設備が必要とされていた。救急体制として、ハッサケ県立病院はイラク戦争を想定して、3月15日より定期手術をやめ、緊急手術のみとしていた。緊急事態に備えて、5人からなる10の救急チームを作っていた。救急車は、県内に15台あり、そのうち4台が日本からの寄贈(1993年)であるが、旧式となっていた(図2)。滞在中、ハッサケ県立病院中庭で、テント設営、機材のデモンストレーションを行った(図3)。また携行機材(緊急医療バック)105個(1.8トン)の供与(ドネーション)も行った。

ハッサケ市の近くのアルコール難民キャンプは、1991年の湾岸戦争時、12,000人の難民を受け入れた実績がある。そこに、UNHCRが難民キャンプを建設中で、ユニセフが井戸を掘っていた。今後難民増加の場合、アルコールキャンプで重症患者が出た場合に、後方支援病院としてハッサケ県立病院の果たす役割は大きいと思えた。

## 救急車と救急機材の調査

1993年に日本から寄贈された4台の救急車のうち1台は日本の酸素ボンベを備えた心疾患用の救急車である。心電図モニター、サクシオン、除細動器などが備えてあったが、他の車はモニター設備がなく患者搬送用であった。

救急処置室での要望品として、頸椎・腰椎固定具、吸引システム一式(サクシオン)、気管挿管のための喉頭鏡、胸腔内チューブ(トラカールセット一式)、肋骨骨折時の胸壁固定バンド、小外科セット、中心静脈カテーテルセット、骨折用のシーネ、屋外での患者治療時に体を温めるグッズ、ポータブル心電計、超音波装置、除細動器、放射線被曝測定カウンター、ポータブルのX線装置があげられた。病院内の医療器具として、腹腔鏡(トレーニングセットと、専門医師が必要と指導)、人工呼吸器、透析装置、整形外科手術機器、脳外科マイクロセットがあった。病院内設備では、MRI、心疾患用のカテーテル検査室、手術場でのライトスタンド、手洗い装置、ストレッチャー、外来で患者を呼ぶマイクロフォン(連絡システム)、救急車(移動クリニック)を要望していた。今回はハッサケ病院関係者と良くコンタクトがとれ、救急医療の現場、システム、手術現場を見ることが出来、討論し、技術指導を行った。



図2：1993年にJICAから寄贈された救急車とハムード医師



図3：ハッサケ県立病院でのテント設営後の交流

## 送別会

最終日には、関係者で送別会を開いて頂いた。宴もたけなわの頃、緊急の電話があり、米軍が誤爆し、死者9人、負傷者4人が出たとのことで病院に向かった。負傷者4人のうち1人は出血のため開腹手術を受けており、すぐ近くで戦争が行われていることを改めて実感した。

## おわりに

シリアに出向し、救急医療体制の技術支援を指導した。今後、現地医師・看護師を日本の救急病院へ研修に派遣し、日本の実情を知った人を育成した状況で、技術指導すると技術移転がスムーズに行えると思った。

お知らせ

## 「多様性教育ワークショップ」に参加を 札幌YWCA開発教育勉強会CORO

平成16年  
1月10日・11日

大阪多様性教育ネットワーク(ODEN)の森実氏、下村哲史氏を招いて勉強会を開きます。「多様性教育」とは、人が抱えている様々な偏見を取り除き、差別のない世界を創るための教育で、個々人の間にある”違いを豊かに”発展させるための教育です。

参加を希望する人は、氏名・所属・住所・電話・ファクス・電子メールアドレスを書いて右下のファクスまたはメールアドレスまで申し込んでください。費用は7,500円(2日間通し)。参加申し込み期限は12月18日(木)で定員になり次第締め切ります。

日 時 平成16年1月10日(土)、11日(日)  
午前9時から午後5時(2日間)  
場 所 札幌市男女共同参画センター中研修室  
(札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ)  
申込み・問い合わせ先 札幌YWCA(札幌市北区北7条西6丁目  
北海道クリスチャンセンター内)  
電話/ファクス 011-728-8090  
E-mail sapporo@ywca.or.jp